

勝川駅前通商店街振興組合の歴史と今、そして未来 The History, Present, and Future of the Kachigawa Ekimae Street Shopping District Promotion Association



小柳出和文 OYAIDE, Kazufumi

株式会社鳥丸フードサービス代表取締役社長。大手居酒屋チェーンの店長経験を活かし、10席の焼鳥屋から創業。苦労の連続で何ヶ所も市場を廻ったり、生産者に会いに行ったりと、眠れない日々も多くありつつ、食材の仕入れ、鮮度、温度管理、調理方法、工夫を重ねることで運営が安定。人気店になり、地域密着型の店として、今では春日井市内で系列6店舗を経営。現在、設立50周年を迎えた勝川駅前通り商店街振興組合の理事長として、組合運営に新しい風を吹かせて奮闘中。

ABSTRACT

The Kachigawa shopping district was established around 1900 and grew significantly with the opening of JR Kachigawa Station. Recent redevelopment efforts have improved convenience and made the area more attractive for younger generations. A key initiative for revitalization is the monthly "Kobo Market," which has received national recognition and was selected as one of the "Top 30 Thriving Shopping Streets" in Japan in 2021. However, the district faces challenges such as an aging population and a lack of younger business owners. To address this, collaborative efforts with other organizations have been launched, introducing cultural and engaging events like the Gujo Odori dance festival and beer gardens. Additionally, initiatives such as the TANEYA Project and the Kachigawa Village Project aim to encourage young entrepreneurs to establish businesses in the district. These efforts are crucial for ensuring the long-term sustainability of the shopping street, and greater participation from younger generations is highly encouraged.

皆皆さん、こんにちは。勝川駅前通商店街振興組合で理事長を務めております小柳出和文と申します。先ほど、サボテンについてお話をされた出口さんも、同じ商店街のメンバーです。また、先ほどお話しされた柊先生には大変お世話になっており、商店街のバーチャルの街をとて格好良く作っていただきました。今回は、その際に学生の皆さんに事前の授業でお話しした内容に加え、さらにプラスアルファしたお話をさせていただきます。前回は「歴史と現在」というテーマでお話をしましたが、今回は「持続可能な社会」というテーマに沿って、未来まで含めた内容をお伝えしたいと思います。

勝川駅前通商店街の歴史と発展

勝川は、昔から庶民の町であり、縁起の良い町として親しまれてきました。古き良き価値を大切にしながらも、勝川周辺の再開発によって新しい風を呼び込み、これからも庶民に親しまれる町として変化し続ける商店街です。

今年、勝川商店街は50周年を迎えました。昨日行われた50周年記念式典の様子が今日の中日新聞朝刊に掲載されています。市長や県議、市議の皆様にもご参加いただき、盛大に開催することができました。

この商店街は、1900年頃に誕生しました。当時、国鉄勝川駅が開業したことで、多くの商業施設やサービスが集まり、町並みが形成されていったとのこと。私はその頃はまだ全く生まれでもいませんでしたが。私は、静岡県の伊豆出身で、22年前にこの勝川に移り住みました。当時の話を聞くと、昔からこの地域は商業が栄え、人々の暮らしに密接に関わってきたようです。

この商店街は、「弘法通り」とも呼ばれています。その由来は、勝満山崇彦寺（しょうまんざん しゅうげんじ）というお寺さんにあります。ここには、高さ18メートルの弘法像があり、地元の方々から「大弘法さん」と親しまれています。この弘法像をシンボルとして、商店街の通りは「弘法通り」と呼ばれるようになり、市民の皆さんに親しまれてきました（図1）。



図1. 勝川駅前通商店街入口とシンボルの大弘法さん

勝川駅前通商店街の概要

JR勝川駅を出て、先ほどの地図にもありましたように、そのまま北へ進むと商店街に入ります。旧国道19号線から国道19号線までの約300メートルのエリアが、勝川駅前通商店街となっています。この商店街には、老舗のお店から新しく開業したお店まで、さまざまな店舗が軒を連ねています。100年以上、あるいは120年続く老舗もあり、商売をされている方々の顔ぶれも多種多様です。

こちらの写真は、1900年頃の勝川駅の様子を写したものです（図2）。当時は、まだ蒸気機関車が走っていた時代で、風情のある町並みが広がっていました。



図2. 開業当時の勝川駅の様子

出典：「中央線ものがたり[中央線今昔]」『春日井アーカイブ』KSN（春日井シニアネット）

勝川駅周辺の再開発と都市の変化

1987年から再開発事業が進められ、勝川駅周辺は大きく変貌を遂げました。駅の高架化が進み、駅の位置がより高くなりました。それ以前は、駅周辺の道路がひどく渋滞していたそうですが、高架化により、駅の下を抜けることができるようになり、南北の移動が格段に便利になりました。このような都市整備が進んだことにより、若い世代にも住みやすい街としての魅力が高まり、マ

ンションの建設も進んでいきました。さらに、名古屋まで電車で約15分という利便性の高さもあり、勝川は「住みやすい街」として、多くの人にも選ばれるようになっていきます。

「弘法市」の全国的な評価と「羽ばたく商店街30選」への選出

このような街づくりの取り組みが評価され、2021年には中小企業庁より「羽ばたく商店街30選」に選ばれました。全国には約1万5000の商店街があり、各地でさまざまな活性化の取り組みが行われています。その中でも、特に勝川駅前通商店街の「弘法市」の活動が高く評価され、今回の選出に至りました（図3）。

弘法市は、毎月第3土曜日に開催される商店街の名物イベントです。ちょうど今月の弘法市は、明日開催される予定です。こちらの写真が弘法市の様子です（図3）。地域の人々や観光客が集まり、にぎやかな雰囲気の中で、さまざまな商品や食べ物を楽しめるイベントとなっています。



図3. 「はばたく商店街30選選定」、弘法市の様子

これは、どこかのホームページで見つけたもののなのですが、個人的にとっても印象に残り、共感した表現なので引用させていただきます。「老いも若きもみんなが集うごちゃ混ぜ感が楽しいおもちや箱のような商店街」と書かれていましたが、まさにその通りだと思いました。勝川商店街には、若い人たちが開いた新しいお店もあれば、すでに四代目となるような歴史のある老舗もあり、それぞれが異なるコンセプトを持ちながらも、うまく混ざり合って共存しています。いろいろな立場のお店が集まっているにもかかわらず、みんなが仲良く協力し合い、特に「弘法市」だけは一致団結して開催するという一体感がある商店街です。そのような商店街の雰囲気を、とても楽しいものだと感じています。

商店街と聞くと、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。大きく分けて三つくらいのタイプを思い浮かべるのではないかと思います。例えば、大須のように賑わいのある商店街のイメージがあるかもしれませんが、あるいは、レトロな雰囲気があり、少し入りづらく感じるような商店街もあります。そして、もう一つは、ほとんどの店舗がシャッターを下ろしてしまい、活気が失われつつある商店街のイメージです。

勝川商店街は、本当に活気があり、元気な商店街です。先ほど柊先生のスライドの中では、シャッターが閉まったお店の画像が多く映っていましたが、実際にはほとんどの店がしっかりと営業しており、商店街全体としても非常に活発に活動しています。

勝川駅前通商店街振興組合について

ここで、勝川駅前通商店街振興組合について少し紹介させていただきます。現在、組合員数は64事業所で構成されており、主に10名の理事が中心となって運営しています。さらに、この理事メンバーの中には、三つの部門を統括する部長がそれぞれ一人ずつおり、「広報部」「企画部」「施設管理部」という三つの部署に分かれています。

広報部は、勝川商店街にある各店舗の情報を発信する役割を担っており、商店街のホームページの運用や、勝川の魅力を紹介するコンテンツの制作を行っています。商店街振興組合は、64の事業所の皆さんから毎月の組合費をいただきながら運営しているため、その資金をもとに施設管理部が街のインフラ整備を担当しています。例えば、街路灯を設置したり、訪れる方が安心して利用できるよう、商店街の各所に休憩所やベンチを設置したり、それらの維持管理を行っています。企画部は、「弘法市」をはじめとする商店街のイベントの企画・運営を担当し、商店街の活性化に努めています。このように、商店街振興組合は三つの事業部を中心に成り立っており、それぞれの部門が連携しながら活動を進めています。

現状の課題について

現在の勝川駅前通商店街は非常に活気があり、若い人もいる状況ではあります。しかし、私が20年前にこの商店街で商売を始めて以来、新しく若い世代の人たちが増えていかないという問題を抱えています。長年商店街に関わってきた私自身が、いまだに「若手」と言われ続けていること自体が、大きな課題ではないかと感じています。私もすでに50歳になりますので、本来であれば「若手」と呼ばれる立場ではないはずです。しかし、それでもなお「若手」のままでいるということは、次の世代の担い手が十分に育っていないということを意味しており、これが商店街全体にとっての重要な課題だと考えています。

「弘法市」も、これまでに240回以上開催されてきましたが、その運営メンバーが固定化しているという現状があります。イベントの設営では、ときには重い荷物を運んだりする作業が必要になることもあります。しかし、高齢のメンバーが増える中で、こうした作業をこなすのが難しくなっているのが実情です。ここからさらに5年後、10年後を考えたときに、今の体制のままで大丈夫なのだろうかという不安もあり、そうした課題を意識しながら、新しい方法を模索しているところです。

存続の危機というほどの状況ではありませんが、長期的に考えたときには、今のままでいいのか、もっと新しい人を取り込む努力をしていかなければならないのではないのかという問題意識を持っています。こうした点が、現時点での商店街の課題として挙げられます。



図4. 勝川駅方面から見た弘法市の様子

こちらの写真は、毎月第3土曜日に開催される弘法市の様子を写したものです（図4）。勝川駅の方から北に向かって撮影した写真ですが、ご覧のとおり、テントがずらりと並び、60から80ほどのテナントが出店しています。出店者の方々も、地元の商店だけでなく、遠方からの参加も多く、京都や滋賀といった地域からも、お店の方々が商品を持ち寄り、テントを出してくださっています。このように、さまざまな地域の方々と一緒になって商店街を盛り上げていくイベントとなっています。

お時間がありましたら、ぜひ明日、勝川駅前通商店街に足を運んでみてください。商店街の雰囲気を感じていただければと思います。

消費行動の変化と対応策

商店街の課題に関連して、私が飲食業を経営する立場から感じる消費行動の変化についてお話ししたいと思います。近年、大量生産・大量消費の時代は終わり、物を購入するだけであれば、インターネットショッピングやイオンのような大型商業施設へ流れてしまうのが現実です。そのような環境の中で、商店街が今後どのように生き残っていけるのかを考えたときに、やはり大切なのは「ことの消費」や「ときの消費」だと思います。ここでしか得られない経験や、ここでしか出会えない人とのつながりを価値として提供することが、商店街の存在意義になってくるのではないかと考えています。ただ商品を買うだけではなく、その場所での体験や、地域の人との交流を通じて、安心や安全、地域のつながりを感じられるような商店街作りが必要です。

その一環として、商店街のイベントのあり方を模索し、「弘法市」の枠を超えたさまざまな試みを行っています。例えば、昨年5月には「郡上おどり」の方々に商店街へ来ていただき、春日井で郡上おどりを開催しました（図5）。また、想定外のイベントとして、ビアガーデンの開催や、移動式のサウナを設置する企画などを実施しました。こうした取り組みを通じて、お子さんから大人まで地域の方々に楽しんでいただき、「勝川は住みやすく、面白い街だ」と思ってもらえるような商店街作りを目指しています。



図5. かすがい郡上踊り

弘法市のさらなる発展のために

再び「弘法市」の話に戻りますが、このイベントの魅力は、単なる物販ではなく、多くの人が関わることによって生まれる「非再現性」「参加性」「貢献性」の三つの要素にあると考えています。地域の方々からも、「第3土曜日になったら、勝川商店街に行けば何かしら面白いことを

やっているよね」と言っていただけるようになり、親子連れで訪れ、買い物をし、食事を楽しみながら、地域のイベントとして定着してきています。

この弘法市をさらに発展させるために、ボランティアスタッフを募集しています。先生方には、ぜひ学生の皆さんにも声をかけていただき、若い力をこの商店街に呼び込んでいただければと思います。商店街を盛り上げるイベントに携わることで、学生の皆さんにとっても貴重な経験となるはずです。

また、郡上おどりと宵祭の様子を映した写真もご覧ください。今年も5月の第3土曜日に郡上おどりを開催予定です。昨年は、この狭い通りに1万人以上の人々が集まり、大変な盛り上がりを見せました。今年も同様に、多くの人に楽しんでいただけるイベントにしていきたいと考えています。

新しいプロジェクト

さらに、商店街に若い人たちの新しい風を吹き込むための取り組みとして、「TANEYA プロジェクト」や「勝川ビレッジ」についてもご紹介させてください。TANEYA プロジェクトは勝川商業開発が運営しているプロジェクトで、地域の人たちと空き家問題に向き合い、商店街の空き店舗が出ないようにするために立ち上げました。新しいお店が入りやすくなるような仕組みを作り、情報が活発に流れるようにすることが目的です。勝川ビレッジは弊社の取り組みの一環として、飲食店に関して厨房機器を備え付けにし、開業資金ゼロでもお店の運営ができるような環境を整備しています。こうした工夫をすることで、商店街に新しい風を呼び込み、活気を維持することを目指しています。



図6. TANEYAプロジェクト（左）、勝川ヴィレッジ（右）

終わりに

全体的に見て、やはり今一番求められているのは「若い力」です。商店街がこれからも発展していくためには、時代に即した新しい発想が必要です。固定化された考え方ではなく、新しいアイデアを取り入れながら、地域全体で商店街を支えていくことが大切だと感じています。私自身も、おじさん世代としてそろそろ引退を考えなければいけないなと思うことが増えています。だからこそ、ぜひ若い人たちの力を貸していただきたいと思っています。

最後に、先日行われた「クロスオーバーSDGs プロジェクト」の授業内容に少しプラスアルファを加え、お話しさせていただきました。本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。